

## ヘレニズム～イスラーム考古学研究会

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 達夫, 岡田, 保良 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/1571">http://hdl.handle.net/2297/1571</a>

# ヘレニズム～イスラーム考古学研究会

佐々木達夫, 岡田保良

ヘレニズム～イスラーム考古学研究会が初夏の金沢で1994年から開催され、1996年に第3回を迎えた。この研究会は、ヘレニズム時代以降の遺跡や建築、出土品や工芸品、文字資料を用いて、考古学、美術史、工芸史、建築史などの分野の研究交流を行う場である。対象とする地域は西アジアから中央アジアにかけての広大な地域である。アレクサンダーはエジプトからインド西部までを統一し、アジアの西半分の交流が盛んになった。ヘレニズム文化以降は次のような国家の領域が西アジアの範囲になる。今のトルコからインド西部を支配したセレウコス朝シリア、東ローマ帝国、ササン朝ペルシア、パルティア、クシャーン、エフタル、ウマイヤ朝、アッバース朝、セルジューク、イルハン国、ティムール朝などの支配した地域。こうした地域の一部を東アジアの漢や唐も支配したことがあり、元は大部分の地域を支配した。この地域の人々は、他地域とつねに交流を続けている。大きな視野から、この地域の歴史や文化を眺めることも、研究会の目的の一つである。

西アジアを中心とする考古学研究は、日本では20世紀後半に本格的に開始されたが、ヘレニズム以降イスラーム時代を中心に研究する人々が集まって話し合う場はまだ少ない。そこで、研究の交流を目的として生まれたのがこの研究会である。集まった研究者は、アジアの半分を占める地域と二千年にわたる時代を扱う。他の研究分野の方々の話を聞くことで、広い見地から各自の研究に共通する問題点を見だし、活発な質問と意見が出され、刺激的な研究交流が行われている。

各地から参加された方達は、この分野の研究に興味をもつ研究者が多いのは当然であるが、東京や関西の大学生や地元の方々の参加も目立った。ヘレニズムやシルクロードという響きは歴史のロマンを十分に堪能させてくれるが、それにもまして、概説書や教科書もまだない分野の最先端の研究成果に触れる喜びも味わうことができた。

第3回研究会は、1996年7月6日（土）7日（日）の両日、金沢大学文学部で開催された。発表内容は次の通りである。

「ウマイヤ・アッバース朝のアラビア湾岸住居」佐々木達夫（金沢大学）

展覧会見学 「アラビア湾岸の交易都市ハレイラ島の発掘」金沢大学資料館  
司会 辻成史（大阪大学）

「ペルシア戦争は自由のための戦いか：ペルシア帝国像の再検討」中井義明（同志社大学）

「パルミラ出土の織物」坂本和子（国士館大学）

司会 屋形偵亮（信州大学）

「ローマ時代エジプトの家族：アコリスの墓碑銘を中心に」辻村純代（京都女子大学）

「オールドス青銅器の兜と飾り帯び」高浜秀（東京国立博物館）

「イラクのヘレニズム建築」岡田保良（国士館大学）

司会 春田晴郎（東海大学）

「ササン朝メルブの発掘」St John Simpson（ブリティッシュ博物館）

「ソグドの神々とイスラーム・アラブの侵攻」小谷仲男（富山大学）

「イスラーム文化におけるスィームルグについて」甲子雅代（岡山県立大学）

司会 千代延恵正（東京大学）

「ニガールのミナレット — 星形断面をもつ塔状建築の系譜」深見奈緒子（東京都立大学）

「アラブ圏の都市型隊商施設」山田幸正（東京都立大学）

「イラン中央砂漠の伝統水利施設」牛木久雄（国際協力事業団）

第2回研究会は、1995年7月7日（金）8日（土）9日（日）の3日、金沢大学文学部で間開催された。発表内容は次の通りである。

「シルクロードの織物を考える — サミットの成立 — 」横張和子（古代オリエント博物館）

「大谷探検隊収集の錦について」坂本和子（国土館大学）

「ハトラのレリーフとアッタール染織品に共通するデザインについて」藤井秀夫（国土館大学）

「パルミラ彫刻と東方ヘレニズム」宮下佐江子（古代オリエント博物館）

「エリュマイス王国研究史上の問題点」春田晴朗（東海大学）

「東方キリスト教遺跡における聖遺物とイスラーム陶器の共伴関係」岡田保良（国土館大学）

「サマラ出土品からみるアッバス朝陶器の分類」佐々木花江、佐々木達夫（金沢大学）

「イスファハーン建築のテラコッタ文様」深見奈緒子（東京都立大学）

「コプト時代の都市構造」辻村純代（古代学研究所）

「西安東郊隋墓出土の西方系ガラス容器」谷一尚（共立女子大学）

「パキスタン、ハザーラ地方シンキアリ地区の仏教寺院址」小泉恵英（東京国立博物館）

「新出土のガンダーラ美術 — 燃燈仏供養図 — 」小谷仲男（富山大学）

「ガンダーラの古い一枚の浮彫り石板をめぐる」前田耕作（和光大学）

「自由討論・西アジア考古学を語る」参加者全員

「トルコの銅・銀職人」高橋忠久（中近東文化センター）

「新発見のガンダーラ平地寺院跡」浜崎一志（滋賀県立大学）

「エリュデニズの教会群に見られる増設チャペルについて」辻成史（大阪大学）

「ポンペイ壁画におけるヘレニズムの受容と変容」飯島章仁（岡山市立オリエント美術館）

「イラン、ハリメジャン村の暮らしとラシュトのバザール」千代延恵正（東京大学）

第1回研究会は、1994年7月1日（金）2日（土）の両日、金沢大学文学部で開催された。発表内容は次の通りである。

「『エリュトウラー海案内記』の遺跡を訪ねて(I) エジプト～エチオピア」薮勇造（東京大学）

「ダルベルジンテペの発掘」林俊雄（創価大学）

「ガンダーラ山岳寺院の調査」浜崎一志（京都大学）

「パキスタン北西辺境州ハザーラ地方の仏教時代遺跡踏査」小泉恵英（東京国立博物館）

「パルミラの発掘」泉拓良（奈良大学）

「獅子狩図の変遷 — パルティア朝からササン朝へ — 」田辺勝美（金沢大学）

「ハトラ彫刻とアッタール染織品におけるヘレニズム意匠について」藤井秀夫（国土館大学）

「東地中海世界のローマンランプ — シリアとエジプトの比較」辻村純代（古代学研究所）

「イスラエルの工房址出土のガラス」谷一尚（共立女子大学）

「中国出土の西方文物」齊東方（北京大学）

「アラビア半島アデン湾、オマーン湾のイスラーム遺跡を訪ねて」佐々木達夫（金沢大学）

「6-10世紀の東方キリスト教建築様式」岡田保良（国土館大学）

「イラン・中央アジア圏のイスラーム墓廟建築」深見奈緒子（東京都立大学）

「ペルシア湾岸で発掘したイスラーム墓廟」佐々木花江（古代オリエント博物館）

「自由討論・西アジア考古学を語る」

1994年第1回研究会の発表概要は『ラーフィダーン』15号、1994年に掲載した。1995年第2回研究会発表のうち、4人の概要は本紀要次頁以下に掲載している。